

福津心しぎ発見



福間に果樹を広めた人

手光区には、福間地域に果樹栽培を広めた功績をたたえる碑があります。今月は中川松太郎なかかわまつたろうを紹介をします。



▲松太郎から指導を受けた人たちが感謝の気持ちを込めて建てた記念碑

中川松太郎は、明治3年に手光村で生まれました。32歳のとき、中国地方や近畿地方で果樹園芸業の発達を見て、手光村での農業の副業に適していると考えました。

松太郎は、試しに自宅の庭にナシの木を、山にモモやミカンを植えてみました。すると、予想以上によく育ったため、村の人にもこれを勧めましたが、なかなか受け入れてもらえませんでした。それでも、明治44年と大正5年に、自分で育てたナシを宮中に献上したところ、これを宮内省が買い上げてくれました。松太郎は感激し、この仕事を一生続けようと決心しました。

それから松太郎は、希望する人に苗木を分けたり、栽培の方法を教えたりして果樹栽培を広めました。また、福間に果樹組合を、宗像郡に果物会を組織し、福間地域の果樹栽培の発展に貢献しました。



発行



福津市

〒811-3293 福岡県福津市中央1-1-1

☎42・1111 (代表)

編集

広報秘書課

印刷

久野印刷株式会社